

ふくし TIME'S

<http://www.knsyk.jp>

福祉タイムズ



ともしび運動

9

2009 No. 694



〈写真・菊地信夫〉

仲間の心にホールインワン！

高齢者に人気の「グラウンド・ゴルフ」。専用のクラブとボールを使い、ホールポストに入って静止するまでの打数を競うスポーツだ。ルールは簡単で、子どもから高齢者まで気軽に参加できることから、全国でも愛好者が飛躍的に増えている。

「いちばん大切にしていることは技術をあげることよりも、ゲームを通じた人との交流ですよ」。この9月4日から8日まで北海道で開催された「第22回全国健康福祉祭北海道・札幌大会」に参加した神奈川県選手団のグラウンド・ゴルフチームのメンバーは口を揃える。いろいろな人といっしょにコースをまわるので、すぐに仲よくなれるそう。今大会でも全国の仲間との交流を深めてきた。なかには新たな仲間との出会いが楽しみになり、旅行先にクラブとボールを持参し、現地で飛び入り参加し地元の人とプレーする方もいるという。

そうはいつでもそこはスポーツ。「やっぱりやれば“ホールインワンの一つでも”ってみんな思うよね。でも技術が3割、“運”が7割。とにかく打ってみたいとわからないんだよ」と笑いながら監督の大谷孝さん（80歳、写真右から2番目）は話してくれた。

CONTENTS

特集

母子生活支援施設の利用家庭の自立に向けて … 2

NEWS & TOPICS

共同募金にご協力を！ほか …… 4

福祉人材確保定着・最前線 …… 5

でかけてみませんか …… 6

連載

子どもたちがのびのびと育つために―第6回― … 8

県社協のひろば

第8回かながわシニア美術展開催 …… 10

かながわHOT情報

鎌倉アレルギーっ子・親の会

「わたげ☆ひろば」（鎌倉市） …… 12

母子生活支援施設の利用家庭の自立に向けて

～母子生活支援施設・アフターケアの取組み～

特集

ドメスティックバイオレンス(DV)による被害や離婚により、生活基盤を失う親子が増えています。ゼロからのスタートを切る親子の自立に向けた現状と課題について、母子生活支援施設の取組みを通して見ていきます。

母子生活支援施設とは

お話を伺った「母子生活支援施設 設くらき」(横浜市南区)には、DVの被害者、経済的な生活苦、外国籍の親子、精神障害と知的障害による要支援等、様々な理由をもつ十世帯の親子が生活しています。

施設長の成田信子さんは「この施設は、母と子が自分たちの生活を取り戻すための準備期間としての施設と考えています。入所したときから退所、そして地域での生活が目標にあります」と役割について説明されました。成田さんはくらきの特徴を「部屋が十部屋あるひとつの大きな家」と表します。県内の母子生活支援施設の各部屋にはトイレがつき、中には浴室も付属され、親子のプライバシーが守られる空間を確保しているところが大半です。くらきはトイレ、浴室が共同という建物の構造上、利用者同士の接点が多く、職員との関わりも密になります。その結

果、この環境で培った人間関係が、何かあったらすぐに接触を持つことができるアフターケアにも深く関わっているそうです。

退所に向けて

「自立」とは、衣食住を自分できなうということと捉えがちですが、母子生活支援施設の利用者は、DVや離婚などさまざまな状況で、経済的な厳しさだけでなく、自信を取り戻し、目標を見出すこと、生活のリズムを取り戻すところがスタートです。食事の支度や掃除、子どもを学校に送り出すこと、計画的にお金を使うことといったことが困難である場合が多いといえます。

くらきでは入所の際に利用者と退所に向けた目標を立て、自立促進面接と称し、年二回、見直しの機会を作り、できたこと・できなかったことを確認し、計画を修正していきます。概ね目標がクリアできると退所に向けた準備が始ま

り、退所後はアフターケアとしての関わりがはじまります。

くらき村の事例から

くらきでは、施設近隣のアパートを入居を希望する親子に対して、時には不動産業者への同行や仲介の中で退所への支援をしています。これが「くらき村」と呼ばれるものです。成田さんがくらきに就職した十九年前にはすでにこうした状況があり、四月現在、三十八世帯が生活をしています。退所後も同一法人内で運営する保育園、学童保育を利用するため、同じ地域に生活することを選択する利用者が多く、その支援のためにくらき村は自然発生的に始まり、広がったといえます。

近くにいるため、退所後も来所や職員の訪問がしやすいこと、周囲に同じ施設を利用していた親子がいることで、気になる世帯について他の親子が連絡をくれることもあります。

【ある親子の支援】

外国籍の母親には高校生と中学生の子どもがいます。日本語でのコミュニケーションに支障はなく、就労、生活面において順調な生活を送っていました。今年、春、母親が小脳出血により入院し、親子に身寄りが無いことから、くらしの職員が病院の諸手続きに立会いました。母親不在の間、子どもの生活をどう支えるかを検討した結果、手助けがあれば子どもだけで生活できる年齢であると判断し、くらし村の他の親子の協力を得て支援しました。

「支援に協力してくれたお母さんは、世話好きで料理も上手。そのお母さんが直接支援に加わると、やりすぎて子どもの自立を妨げる懸念があったので、お母さんではなく子どもが同年だったことにより友達として支援に関わってもらい、楽しく家事をすることを学んでもらいました」と、事情が分かり合えている関係ゆえに、効果的な支援ができた成田さんはいます。

ほか、アフターケアの一環として、くらしでは行事や講座開催時に退

所者に参加呼びかけを行うことにより退所後の生活とあわせて、他の退所者についての情報収集を行っています。

退所後も続く人生において、アフターケアは、その家庭の状況で異なりますが、元利用者が施設に連絡を取る間隔が長くなり、施設から見ても不安な要素がなくなつた時が支援の終わりだと成田さんは考えます。

地域の関わりの可能性

ちょっとした相談に乗ってくれるような人や、その内容を施設や関係機関につないでくれるような人が身近にいたら、退所後の生活がよりスムーズに行われるのではないかと、そのようなネットワークづくりについて伺ったところ、虐待（ネグレスト）の疑いのある子のケースについて、現在、学校、児童相談所、民生委員と協力して支援している事例もあるとのことでした。しかし、「母子生活支援施設の利用者は、人には知られたくない問題を抱えている方が殆どです。母親自身が地域の人に支援を求めた場合には、地域の方を巻

き込んで支援をしたいと思っていますが、プライバシーの保護を含め、なかなか難しい状況です」とのことでした。このことから、アフターケアに関わるのは入所時から関わっていた行政等関係機関や医療関係者、くらし村の他の親子、親子が培ってきた地域の人間関係の中からの人たちが主な構成になるということです。

アフターケアを進めるために

よりよいアフターケアを展開するため、県内すべての母子生活支援施設で構成される本会の母子生活支援施設協議会では、今年度、毎月、の委員会においてアフターケアに関する研修・情報交換を行っています。アフターケアを専門に担う職員の設置や、地域のお母さん達との接点を持つことを目的に、子育てサロンを施設で開催するなど、様々な取組みが報告されています。また、母子生活支援施設で生活をする親子のことも知ってもらうため、民生委員児童委員をはじめとする関係者を対象とした「母子福祉研修会」を開催するなど、外に向けたアプローチも進め

ています。

母子生活支援施設の退所者の支援については、プライバシー保護の観点から地域でより多くの方々に関わってもらうことは難しい状況であることが現実です。しかし、地域で生活を営む上で、様々な人々の関わりは不可欠です。今回の取材をとおし、自立を支えていくことやアフターケアの実践と難しさをうかがい知ることができました。本会では母子世帯と自立に向けた支援を担う施設の役割への理解をさらに広めていく取組みを進めていきます。

（社会福祉施設・団体担当）

〈母子生活支援施設〉

母子生活支援施設は児童福祉法に定められた施設で、配偶者がいない、または何らかの事情により離婚の届出がでない状況にある女性と、その子どもがともに入所し、生活を立て直すための準備期間として生活する施設です。県内には横浜市に八施設、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市に各一施設あります。

共同募金運動にご協力を！

ことしも「赤い羽根」共同募金運動が始まります。

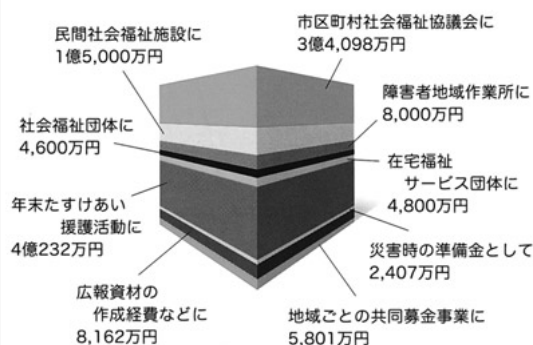
終戦直後の昭和二十二年にスタートしたこの運動も六十三回目を迎えます。十月一日から十二月三十一日までの三カ月間にわたって、全国いっせいに展開されます。

共同募金は、「思いやり」「やさすけあい」の心を育むための運動です。県民皆さまの善意の輪をつないで、民間の地域福祉を支えていくための大切な資金です。

共同募金会では、より多くの事業を支援していくために、新たな取り組みとしてプロスポーツチームとの協働を推進しています。昨年に引き続き、川崎フロンターレの協力をいただくほか、ことしから横浜F・マリノスと横浜ベイスターズも応援してくれることになりました。

平成21年度の
配分計画額12億3,100万円は、
次のように配分されます。

平成21年度寄付金配分計画
〔合計額：12億3,100万円〕



厳しい経済状況が続いているなかでの募金活動になりますが、県内の民間社会福祉施設・団体からことしの目標額十二億三千百万円を大きく上回る資金要望が寄せられています。ぜひご協力をお願いします。

◇共同募金運動の新たな募金・広報活動として、共同募金仕様の自動販売機（清涼飲料水）の設置を推進しています。

協力いただける施設・団体、企業がありましたら、本会までご一報ください。

（県共同募金会）
☎045-312-6339

「当事者中心」を目指して
リカバリー全国フォーラム

二〇〇九開催

厚生労働省では、平成二十年四月より、精神医療福祉の取り巻く環境の変化を踏まえ、「今後の精神保健医療福祉に関するあり方等に関する検討会」が設置され検討が進められています。

こうした中、NPO法人地域精神保健福祉機構（コンボ）の主催により、「日本の精神保健福祉サービス」を「当事者中心」に変革するために「リカバリー」をテーマとしてリカバリー全国フォーラム二〇〇九が、去る八月二十一日（金）、二十二日（土）、日本社会事業大学（清瀬市）にて開催され、当事者・家族、精神医療福祉従事者など約千人の関係者が集いました。

フォーラムでは、当事者出演のトークライブやアメリカカンザス大学のチャールズ・ラップさんによる記念講演、また、精神保健福祉に関する「ピアサポート」、「雇用」、「退院促進・地域移行」など十七分科会に分かれ協議が行われました。

初日のトークライブでは、精神障害のある当事者それぞれの自己実現やその求める生き方を主体的に追求するプロセス「リカバリー」をテーマに、精神障害の当事者や関係者からの思いが語られました。当事者会ウィーズの竹内政治さんは、「当事者活動を通じて仲間同士で主体性を取り戻していくことがリカバリーです」。また、地域活動支援センターそらのまめ所長の中能美香さんは「自分やスタッフも含めて同じ病気の経験者として役割を持ちながら活動し、仲間同士で支え合っている。リカバリーは自分らしさの復活です」。

当事者活動のサポートをしているるびあさば千葉コーディネーターの土屋徹さんは、精神科医療に従事した経験から、「医療では本人の自己決定を奪い、傷つけていたのではないか。従事者側も本人の考えを大事にし、共に考えていくことが必要」とリカバリーに向けて当事者中心に立ち、その人を支える関係者の意識の変化の重要性を強く伝えていました。

（企画調整・情報提供担当）



現場で働く人の気持ちを 知りたいー福祉の仕事を知る懇談 会スタート

就職を考える上で、実際にそこで働く人から直接話を聞くことで、仕事内容のイメージが具体的にになるものかもしれません。福祉・介護の仕事でも、仕事の内容や、働くやりがいや求職者に知ってもらうことが就職のミスマッチを少なくし、職員の確保・定着につながるのではないのでしょうか。

○現場の実情をもっと知りたい

かながわ福祉人材センターでは、就職相談会やガイダンス等を開催し、求職者と求人者である福祉・介護の事業所とが顔を合わせ、現場の理解を深めることができる



熱心に質問をする参加者

場を提供してきました。

特に、昨年末からの雇用情勢の悪化等を背景に無資格・未経験の求職者が増え、「福祉現場の実情をもっと知りたい」等の声が寄せられています。そこで、求職者が気になっていることを施設職員に直接、聞ける懇談会を八月から定期的に開催することとしました。

○企業からの転職者が講師に

第一回目の講師には、企業に在職した経験のある二名の方（特養ホーム生活相談員と知的障害者社会就労センター施設長）を招き、この仕事を目標にしたきっかけや転職して戸惑ったこと、施設での主な一日の仕事の流れ等を語っていただきました。（参加者三十一名）

仕事への心がけとして、「無資格で就職しても、働きながら資格を取得するなどステップアップへの努力が必要」、「利用者との信頼関係や共感の気持ちを大切にすることが、自分自身の成長にもつながる」、「これまでの社会経験を生かせることも意外にあるが、まずは、企業の価値観やこれまでの肩

書きに縛られずに現場を柔軟に受け入れましょう」などのお話もあり、異業種からの転職を考える方へのメッセージとなりました。

○懇談会ならではの質問も

参加者との意見交換では、求人票からはわかりにくい現場の様子や就職活動に向けた準備など、積極的な質問がありました。中には、「高齢者虐待についてマスコミの報道で聞くが、介護の現場はそれほどストレスが溜まるものなのか」といった率直な質問もあり、懇談会ならではの盛り上がりを見せました。現場の様子を知ること、自分の進みたい分野や職種が明確になった方もいたようです。



参加者の約半数は、福祉・介護分野への就職を検討中でした。そういう方々の背中の一押しができるよう、今後も実体験に基づいた現場の魅力を伝える取り組みをすすめていきたいと考えています。

（福祉人材無料職業紹介担当）

（次回は10月3日（土）13時より。問合せは045-312-1112（代））

PORTSIDE for the best communication
All-round Communicate
株式会社ポートサイド印刷
営業品目
●企画・デザイン・文字情報処理・印刷・製本
●ポスター・パンフレット・販促チラシ・D.M.・製品カタログ・会社案内・定期刊行物・自費出版・カレンダー・各種ノベルティ
●データ処理・入力・データベース・ホームページ・クロスメディア活用 他
営業本部・工場
〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2
Tel.045-776-2671(代) Fax.045-776-2678
<http://www.portside.co.jp>

神奈川県福祉研究会
(税務・会計の専門家グループ)
理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)
同 桑江 郁男(☎045-402-4433)
同 辻村 祥造(☎045-311-5162)
同 西迫 一郎(☎046-221-1328)
同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)
代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

一般家庭から大型ビルまで
最新のエレクトロ技術により
安心と安全を提供します。
京浜警備保障株式会社
代表取締役社長 岡本 誠一郎
本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX (045)441-1527

小田急線・箱根登山線で行く

「箱根散策」

～箱根湯本駅がバリアフリー化～

国道1号線に沿って数々の飲食店や土産店が立ち並び、箱根観光の玄関口である「箱根湯本駅」が今年待望のリニューアル！エレベーターやエスカレーターの全面開通も間もなく始まります。（9月下旬の予定）これから秋の紅葉シーズンを迎える名所箱根の便利な楽しみ方を今回はご紹介します。

今月は ⇒ NPO法人神奈川県障害者
自立生活支援センター だお伝えします！

通称KILC(キルク)。1997年4月設立。障害者の自立生活を目指してピアカウンセリング(障害者による相談事業)や各種情報提供、障害者施策の研究・提言など障害当事者の目線で共生社会の実現を目指した活動を展開。現在、厚木・平塚2ヶ所を拠点に活動中。

〈連絡先〉〔法人本部〕厚木市愛甲953-2

TEL: 046-247-7503/FAX: 046-247-7508

URL <http://www.kilc.org/> E-mail info@kilc.org

箱根湯本駅から箱根観光に出発！

坂道だらけで車椅子利用者にとってはキツかったり大変な場所もまだまだあるけれど、行けばやっぱり楽しい箱根エリア。

今年リニューアルした駅舎内には、お弁当やお土産はもちろん、お酒落なカフェやスイーツショップなどがお出迎え。さらに宿泊案内所やバス案内所、総合案内所などもあるので、分からないこと、知りたいことがあれば立ち寄ってみましょ

う。駅舎1階にある箱根キャリアサービスは、手荷物を駅に預けて手ぶらで



リニューアルした駅舎2階。平日でも賑わっているのはさすが

気軽に観光でき、その手荷物は自分の泊まる宿に届けてもらうことができます。

これまでは駅舎から国道を横断して商店街や南口駅前広場側へ渡るのは危険でしたが、この度横断デッキが整備され、安全かつ便利に渡れるようになりました。

箱根湯本周辺の温泉宿を利用するなら、箱根湯本観光協会のホームページをチェックするのがお勧め。加盟している旅館やホテルの情報を一目で見ることができます。

病気や障害があっても出掛けたい！

「箱根には行きたいけれど、介助者やボランティアが見つからない」、また「医療ケアが必要だから外出は難しい」などと考えている方へ是非お届けしたい情報です。外出支援や療養通所介護など、中重度者のためのデイサービス等を行う民間会社によるサービスが今年7月にスタートしました。看護師やヘルパーを中心に派遣が可能で、箱根観光はもちろん、近隣ならば送迎もしてくれます（送迎範囲は小田原駅周辺～箱根湯本）。また、ご家族と一緒に観光への同行や、宿泊先へ訪問して処置のお手伝い・状態観察のための訪問にも対応可能とのこと。

障害のある方ご本人やご家族にとって安心して嬉しいこうしたサービスを利用し、この秋は箱根方面へリフレッシュしに出掛けてみませんか。

インフォメーション

■箱根湯本観光協会

電話 0460-85-7751 FAX 0460-85-7753
<http://www.hakoneyumoto.com>

■Accommo. Care Service株式会社

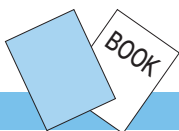
（あこも、けあさーびす）

小田原市入生田47-1

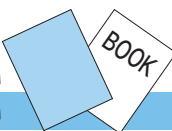
電話 0465-43-6133 FAX 0465-43-6131

※介護保険でのご利用、それ以外の自費でのご利用可。申込みは2か月前からOK。

◆ご意見・ご感想は kikaku@knsyk.jp までお寄せください。



今月の福祉資料室



「福祉資料室」をご利用下さい！

◆利用時間：月～金（第3金曜日、祝日、年末年始等を除く）の9時～17時
◆問合せ：☎045-311-8865

図書

★ぼくはダウン症の俳優になりたい
予育ては出会いと感謝に支えられ
て（内海智子著、雲母書房）
★介護職・家族のためのターミナル
ケア入門（杉山孝博著、雲母書房）
★社会保障の未来を考える「改革」
の時代を超えて（青柳親房著、筒井
書房）
★居宅ケアマネ 超実務的現場ル
ーブック（成澤正則著、日総研）
★相談援助演習・実習ワークブック
（榎本則幸・長瀬晃二・仁木淳・秋
山朋寛・岩永量子著、久美）
★ICFの視点に基づく高齢者ケア
プロセス（安藤邑恵・小木曾加奈子
編著、学文社）
★近所パワー活用術！すずの会流

私のおすすめの1冊



父から学んだこと、
息子に教えられたこと

社会福祉法人
山北町社会福祉協議会
相原 圭二

松井秀喜・松井昌雄 著

私の息子は小学校から野球をはじめて、高校1年
生になった今でも続けています。息子と一緒に野球
に関わってきたこともありこの本を選びました。

この本を読んで、親子関
係の素晴らしさ、お互いが
信頼して尊敬しあっている
ことがとても印象に残って
います。

地域福祉活動も住民との
信頼関係がなくては、地域
福祉の推進はできないと思
います。私は、この1冊と
出会って、人と人のつなが
りを今後も大切にしていき
たいと思いました。



2007年7月刊
定価1000円（税込）
実業之日本社

資料

・福祉活動の手法（すずの会）
★福祉職場における業務標準化のた
めのマニュアルモデル（保育所版）
改訂版（中村俊一・宮内克代共著、
東京都社会福祉協議会）
★地域福祉推進に関する提言 2
009（東京都社会福祉協議会）
★子どもの育ちを地域社会から支
援するための提言（東京都社会福
祉協議会）
★創立40周年記念誌 高齢者福祉
の歩みと共に（神奈川県高齢者福
祉施設協議会）
※約5万2千冊が検索できる蔵書
検索もご利用ください！
<http://www.knsyk.jp/tosyo/>

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1

施設の業務中事故賠償補償

- ①基本補償
○基本補償（A）は、法人業務を包括
的に補償
○見舞費用付補償（B）は、賠償責任の
ない場合の見舞金も補償
○オプション・医療事故補償も充実
②個人情報漏えい対応補償
○個人情報漏えいによる法律上の賠償
責任を負った場合（おそれのある場合
を含みます）に補償
○クレーム対応費用、見舞品購入費用
等を補償

プラン2

施設利用者の傷害事故補償

- ①入所型施設利用者の傷害補
償
②施設送迎車搭乗中通過型施
設利用者の傷害補償
③施設送迎車搭乗中の傷害事
故補償

プラン3

施設職員の災害事故補償

- ①施設の労災上乗せ補償
②施設職員の傷害事故補償
③施設職員の感染症罹患事
故補償

プラン4

施設の什器・備品 損害補償

- 施設内の什器・備品を
幅広い範囲で補償
○施設の現金等も補償

◆加入対象は、社会福祉法人等で運営
している社会福祉施設です。

- 全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
- 団体契約のため有利な補償と割安な保険料（掛金）
- 迅速で丁寧かつ適正なお支払い

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（「賠償責任保険」「傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「財産総合保険」）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします

団体
契約者

社会福祉法人

全国社会福祉協議会

取扱
代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉株式会社 損害保険ジャパン

〈SJ08-11763, 2009.02.25〉

お互いを大切にし、人との関係を育む

湘南DVサポートセンター（藤沢市）

現代社会において、子どもの相手思いやる気持ちの育ちにくさや、人との関わりの希薄化が指摘されています。子どもが自分を大切にしながら、相手を思いやり、豊かな人間関係を築くことができる力を育むには、どのような支援が求められるのでしょうか。

今号では、湘南DVサポートセンターの取り組みから考えます。

湘南DVサポートセンター（以下、センター）は、一九九九年に設立され、ドメスティックバイオレンス、虐待、いじめなどの被害を受けた女性や子どもの支援として、カウンセリングや心の回復を目的とした野外体験活動、暴力防止活動に取り組んでいます。

センターでは、「いじめ防止プログラム」を独自で開発し、小・中学校を中心にいじめ防止教育を行っています。

プログラムのねらいは、自分も他人も大切にし、自尊感情を持つて生きることが暴力防止につながることを伝えることです。全体講演会（いじめについての共通認

お互いの気持ちを共有する

識）、クラス別ワークショップ（全四回・下記図参照）、全体発表会（生徒が得た知識を発表）で構成され、一学年約半年かけて行われます。

ワークショップで、いじめと関わったときの気持ちを表現し、その気持ちをクラス全体で確認し合ったところ、「加害者」は相手を傷つけたことに後悔している気持ち、「被害者」はいじめられ傷ついた気持ち、「傍観者」は自分がいじめられるのではないか、ただ見過ごしてしまったことへの後悔の気持ちがあり、それぞれが傷ついていたことがわかり、子どもたちは

クラスの問題として向き合うようになりました。

センター代表の瀧田信之さんは「加害者を排除するだけでは何の問題の解決にもならないことを学ぶため、加害者の抱えている問題にも目を向けます。いじめをする子の印象について、質問をする」と、『かわいそう』『さみしがり』『両親同士の仲が悪い』など率直な意見が出ます。子どもは、その子もクラスの一員であり、クラスからいなくなることを望んではいけません。」と話し、子どもたちはそれぞれの立場を理解していることがわかります。

自分も相手も大切にするコミュニケーション

子どもは、相手との関わりで、しばしば度がすぎてしまい、いじめへと変わることがあります。

相手の気持ちを大切にしながら、自分の気持ちを率直に伝えることⅡアサーションというコミュニケーション方法ワークショップでは取り入れ、例えば、電車に乗った場面を想定し、他人に寄りか

	■時間	■内容	■詳細
1回目	50分	いじめは許されない	いじめの定義 被害者、加害者、傍観者の関係って？
2回目	50分	加害者の背景	いじめの加害者って？
3回目	50分	大切な自分	自分と向き合う、傍観者にならない ピアサポートとは？
4回目	50分	伝えよう、いじめ防止	人との境界線を身につける アサーションというコミュニケーションスキル

子どもが相手のことや自分の大切さに気づく内容となっている
ワークショップのプログラム（湘南DVサポートセンターパンフレットより）

かられたときの嫌な気持ちを、言葉でどう伝えるか話し合います。

瀧田さんは、「相手の気持ちを大切にしながらも、嫌なことは嫌と伝えることが、自分を大切にすることだと理解します。また、行為をする側も、相手が嫌な気持ちでいるサインに気づけるようになることが必要」といいます。

子どもたちは、豊かな人間関係を作る上で、自分自身でいじめを止めることができると知り、自分

ハーモニー展の アーティストと共に

蔵まえギャラリー

佐野 晴美



5年程前、茅ヶ崎のショップで偶然、知的障がいのある方のアートと出会いました。

それは社会福祉施設「工房絵」^{こうぼうかい}の方の、ダンボールの絵や小さなバッチで、1つ1つに個性が飛び出していて、心の内面が持つ生命力がほとばしり、作品に触れた時に感じた力強さに圧倒されてしまいました。そのとき私の考えていたギャラリーのメイン事業は、「アーティスト（芸術家）のサポート」「アートの応援」でした。発表の場が無いアーティストに、発表の場を提供する事で何かが変化するのではないかとの思いが起業のきっかけです。ギャラリーが出来たら、ハンディを持つアーティストたちを応援したい、紹介する展覧会をしようとそのとき決意しました。そして3年前「蔵まえギャラリー」を開設してすぐに、障害児・者展を開きました。するとメンバー達がこの展覧会に感動し、こだわりの強い彼らが、小品やグッズを買い、仲間にも紹介してくれたのです。私はアートが人を癒し、変える力がある事を実感しました。無いところに何かを作るのが本物のアートだとも改めて思います。

今年度は知的・精神障害に関わる関係者、ひきこもりの状態にあった方、養護学校、さらに要介護高齢者通所施設など多様な団体が“ハーモニー展実行委員会”のメンバーとして集まり、ハンディを抱えながら自己表現しているアーティスト達をどう支援できるか、アートそのものと向き合っています。

を大切にしながら相手に意見を上手に伝えることが大切だとわかります。



グループでお互いの意見を伝え合います

意識してお互いが関わる

ワークショップを終えると、学んだことを行動につなげるため、生徒から有志を募り、「スクールバディ」(バディ＝仲間の意味)という活動へ展開します。バディはいじめを未然に防ぐため、バディがいじめの相談に乗ったり、校内での啓発活動、校内放送のDJ、演劇、映画作成など取り組み、学校から傍観者をなくすための活動をしています。

その結果、携帯電話の掲示板に

相手を傷つける内容が載っていることがありましたが、バディは誰が書き込んだかをすぐわかり、書いた子に伝え、いじめはなくなった事例があるそうです。先生は、いじめをうけた子どもが登校しなかったことで、初めて事実を知ったとのことでした。

バディの取り組みは確実に、身近な友人として、大人が気づきにくいところにも、気を配り、早く解決へとつながるといった活動へと広がりをみせ、子どもたち同士による支え合う関係作りが進んでいます。

◆ ◆ ◆
瀧田さんは、「子どもの成長に、大人が直接できることは少なく、子どもたちが持つ力を引き出すのが大人の役割と考えています」と話します。

子どもたちに、自分を大切にする「自尊心」や、相手を受け入れ、思いやる「共感性」の大切さを理解してもらふこと、そして、子ども自身が自ら考え、主体的に行動できるように働きかけることが大人の役割ではないでしょうか。

(企画調整・情報提供担当)

第八回かながわシニア美術 展開催

高齢者の生きがいづくりを応援
することを目的に、第八回かなが
わシニア美術展を去る八月二十七
日から三十日まで、神奈川県民ホ
ールギャラリーにて、開催しました。

日本画、洋画、彫刻・工芸、書、
写真の五部門に計六百四十八点が
出品され、審査の結果、入選した
六百十六点を展示させていただきました。

審査員からは、回を重ねる度に
レベルがあがっているといううれ
しい声が聞かれました。



作品から伝わるエネルギーに誰もが
足をとめ見入っていました

主な受賞者は次のとおりです。

【大賞（県知事賞）】

日本画の部 五木田千江子「たわ

むれ」

洋画の部 磯野悦郎「コンポジ
ション'09」

彫刻・工芸の部 薮島みよ子「海
は元氣」

書の部 平松裕子「王維 臨高台
送黎拾遺」

写真の部 小田柿雅彦「ヨコハマ
今・昔」

【優秀賞】

神奈川県共同募金会賞 洋画 柚
木幸夫 神奈川新聞社賞 写真 二
歩宗俊 テレビ神奈川賞 日本画

井出義郎 NHK横浜放送
局賞 彫刻・工芸 林れい FM

ヨコハマ賞 書 田畑ハルエ ア
ール・エフ・ラジオ日本賞 書

原信行 神奈川新聞厚生文化事業
団賞 洋画 野間博子 横浜市賞

写真 森功 横浜社会福祉協
議会賞 彫刻・工芸 松原越郎

神奈川県社会福祉協議会賞 日本
画 夏目日出男

作品はホームページでご覧いた
だけます。

<http://www.neurin.or.jp/kana>

GAWA

（福祉ボランティア・シニア活動支援担当）

『地域づくり活動相談』をスタート 地域福祉活動の困りごとに専門家 がアドバイスします！

最近、少子高齢化や社会的なつ
ながりの希薄化に伴う孤立等によ
る様々な生活課題の解決に向け、
ネットワークを活かしながら地域
福祉活動に取組む人々 地域福祉
コーディネーター（以下、「C o」）
活動の重要性に対する認識が広ま
り、サロンや見守りなどの実践が
多く見られるようになりました。

こうしたなか、本会ではC o活
動の更なる活発化や地域定着の推
進のため、『地域づくり活動相談』
（県委託事業）を開始しました。

この相談事業では、例えば「サ
ロンを立ち上げるためには、どの
ようなステップを踏めばよい
の？」、「様々な機関・団体とネッ
トワークを築きたいけど、何か良
い方法がありますか？」など、C
oの活動上の疑問や困りごとにつ
いて、本会に設置した専用電話に
より経験豊富なアドバイザーが助
言や情報提供を通して、その活動
を支援するというものです。

地域づくり活動相談

【専用電話相談】

☆相談日時 毎週木曜日10時～17時
（年末年始・祝祭日を除く）

☆電話番号 直通045 - 323 - 2642（FAX兼用）

【地域派遣相談】

日程調整の上、アドバイザーを現地に派遣して、相
談に応じます。

日頃の活動上の悩みだけでなく
「地域福祉活動には、どのような
ものがあるの？」、「C o活動つ
て、何？」など、これから活動を
始めようと考えている方の些細な
疑問にもお応えします。

なお、電話のみでは対応が難し
い場合、アドバイザーを現地へ派
遣して相談に応じますのでお気軽
にご利用ください。

（市町村社協支援担当）

2010年版社会福祉手帳 好評予約受付中！

本会では、ただ今「社会福祉手帳2010年版」の予約を受付しています。

- ◇体裁 85mm×140mm 240頁
- ◇内容 日記欄、資料欄
- ◇価格 500円(税込)
- ◇締切 先着順
- ◇問合せ 本会企画調整・情報提供担当 ☎045-311-1423

苦情解決研修会開催のご案内

苦情解決事業について事業者における苦情解決体制の整備・充実をはかることを目的に、本研修会を実施します。

- ◇日時 平成21年11月13日(金) 13時～16時30分
- ◇対象 県内社会福祉事業者の苦情解決責任者・苦情受付担当者及び第三者委員ほか苦情解決事業に携わっている職員
- ◇会場 神奈川県社会福祉会館2階講堂
- ◇定員 200名(先着順)
- ◇参加費 無料
- ◇申込締切 平成21年10月30日(金)
- ◇問合せ かながわ福祉サービス運営適正化委員会事務局 ☎045-312-1121(代)

第5回社会福祉会計簿記試験

経理事務担当者、経営者の方々の会計業務水準の向上をはかることを

目的に実施します。

- ◇試験日 平成21年11月8日(日)
- ◇申込期間 平成21年9月1日(火)～9月30日(水)
- ◇会場 神奈川県社会福祉会館2階講堂
- ◇受験料 「初級」6,300円(税込)、「中級」8,400円(税込)、「上級」1万6,800円(税込) 但し単科目受験の場合は1万500円(税込)
- ◇問合せ 総合福祉研究会神奈川支部 ☎042-773-9266(八木) <http://www.fukushi-hyokanet/>

日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)10周年・第三者評価普及合同シンポジウム開催

高齢化社会・障害者の地域生活移行の進展などを背景に、今後ますます期待が高まる、「地域での自分らしい生活」を支える取り組みについて考えます。

- ◇日時 平成21年11月7日(土) 13時～16時20分
- ◇会場 横浜情報文化センター・情文ホール
- ◇定員 200名。参加費無料
- ◇申込締切 平成21年10月30日(金)
- ※定員に達し次第、締切
- ◇申込・問合せ かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 ☎045-290-7432

寄附金品あつがとごうじゅうました

「一般寄託金」▽脇隆志
「ともしび基金」▽神奈川県立音楽堂▽スリーエフランドマークプラザ店▽(財)積善会日向台病院▽(福)日本医療伝道会総合病院衣笠病院▽富士シテイオ(株)FUJI大船店・塚原▽渡辺文子(計 七四、八四九円)
【寄附物品】▽西区子ども会育成連絡協議会▽神奈川県定年問題研究会▽神奈川県健康保険組合▽ともしび製品展示コーナーO B会▽神奈川トヨタ株式会社 (敬称略)

へお詫びと訂正

本紙8月号12面「かながわHOTT情報」で三輪千潮さんのお名前の読みがなを「ちお」と記載しましたが正しくは「ちしお」さんでした。ご本人と関係者の方々にご迷惑をおかけしたことを深くお詫びし訂正いたします。

地域福祉(ともしび)推進助成金 申請受付中！

- 15万円以下
12月末までの毎月(随時申請受付)
- 16万円以上(限度額あり)
10月末迄

本会ともしび運動推進担当
☎045-312-1121(内線3201)まで、お気軽にご相談ください！

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所
〒236-0004 横浜市中区金沢 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1598
<http://www.kki.co.jp/>

田圃の事ならおまかせください
●パンフレット・冊子・伝言板
●のり・シール・カレンダー
●お祝い状・お礼状
お気軽にご相談ください！
株式会社 あんざい
横浜市港南区下永谷3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp



夢・みんなと一緒に楽しく

鎌倉アレルギーっ子・親の会「わたげ☆ひろば」(鎌倉市)

食物アレルギー(以下、「アレルギー」)は、特定の食べ物を摂取した時に、免疫反応で湿疹、せきなどの症状が起きることで、生死にかかわることもあります。

今回は、アレルギーなどを持つ子どもと親の会「鎌倉アレルギーっ子・親の会『わたげ☆ひろば』(以下「わたげ」)の方に当事者としてのお話を伺いました。

気軽に悩みを話せる場

「鎌倉市の食育の講座などを通して知り合った四組の親子が、周囲に正しい理解が伝わらないもどかしさに共感し合い、平成二十年四月、市内に会が誕生しました。月に一度の定例会では、同じ立場の親たちが情報交換や交流をしています。会が出来るまでは、一人で悩んでいたが、今は気軽に悩みを話せる場があるので安心し

ています」とホッとした表情を浮かべていました。

理解を得る難しさ

「多くの人が少しでも理解しようと努力してくれているので、感謝しています。でも食べられない状態があることを理解してもらえないのは難しいのです。他の人から差し出された食べ物を前にして、つい手を出してしまい、反応が出てしまったこともあります」と親の一人は語ります。わたげには、さまざまな状態の子どもがいるので、親の対応もみな違います。触れただけで反応の出してしまう子の場合、周囲の理解と協力が不可欠です。伝える難しさに直面しつつ、それを乗り越えて、理解者が増えていく喜びも会の方々は実感されています。

120%の力で

わたげは、親、保育園、学校など関係者への理解を深めるために、平成二十一年二月、講演会を開催しました。「活動を通じて、わたげ」のようにアレルギーへの理解が根を張り始めています。親と地域のアレルギーへの理解を深め、共に歩んでいく環境を作っていきたいです。また、子どもにはバーベキューなどの食べるイベントを通じて、一緒に食べる楽しさを感じてほしいと思っています。そして子どもが社会に出た時に、その社会がよりよいものであるように、120%の力で頑張っていけます」と力強く語ってくださいました。



「皆で食べるとおいしいね」とバーベキューにて思わず子どもから一言

です。また、子どもにはバーベキューなどの食べるイベントを通じて、一緒に食べる楽しさを感じてほしいと思っています。そして子どもが社会に出た時に、その社会がよりよいものであるように、120%の力で頑張っていけます」と力強く語ってくださいました。

(福祉ボランティア・シニア活動支援担当)

鎌倉アレルギーっ子・親の会「わたげ☆ひろば」
連絡先 watage-hiroba@abo3so-net.ne.jp

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808
TEL03(3449)1771/FAX03(3449)1772
URL:www.yasue-sekkei.co.jp
E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp



特別養護老人ホーム(鎌倉市)



新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください